

研究結果報告書

日本における中国系専門職・技術職移住者の教育戦略と社会的ネットワーク

所属：山東師範大学

役職：副教授

氏名：趙 衛国

近年、日本では専門分野技術者の不足がしばしば新聞やニュースで報道されている。就労を目的とする在留資格のうち、「技術」「人文知識・国際業務」と「企業内転勤」は合わせて、狭義の高度人材とされ、日本が最も積極的に受け入れていこうとしている層の外国人労働者である。さらに、「第4次産業革命の下での国際的な人材獲得競争が激化する中、海外から高度な知識・技能を有する外国人材の積極的な受入れを図ることが重要である」（内閣府『未来投資戦略2018年』）と日本政府は国際的な人材を積極的に受け入れる準備をしている。本研究は来日した中国系専門職・技術職移住者を対象に、彼らが日本で生活し続けていく中で当面する、個々の家族の教育戦略と、日中間に形成された様々な社会的ネットワークとの関係を明らかにすることを目的とした。そのため、筆者は2019年4月から8月にかけて、中国では青島・北京・上海を、日本では中国系ニューカマーが多く集中する東京・大阪・神戸を、それぞれ中心に、インターネットによる質問紙調査と現地調査による聞き取り調査を並行して行った。分析すると、以下の結果が得られた。①日本で生活をしながら、WeChat（微信）によって中国国内の親族や友人と密に連絡を取り合い、バーチャル中国人友達ネットワークを形成している。②我が子を国際人間として育てようとする家庭が多く、日ごろからインターネットを利用し、積極的に無料の中国語の授業を子どもに視聴させ、母語教育を熱心に行っている。③居住の長期化や生活基盤の安定化に伴い、越境移動のための自らのネットワークや組織形成が進んでいる。総じて、本研究の協力者たちは滞日期間が長くなるに連れ、日本の社会に参入する意欲を持ちながらも、日本語力および地域住民コミュニティに入るチャンスの不足によって、交友範囲がインターネット上の中国人同士にとどまっているという現状が浮かび上がった。従って、外国人高度人材移住者と彼らの家族に一定期間日本語学習の支援を継続する必要があることを提案するとともに、日常地域コミュニティ活動に積極的に参加するように外国人住民に働きかけ、地域住民の一員としての意識を喚起することも大事だと考えられる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名:日本における中国系 IT 人材移住者家族の教育戦略と社会的ネットワーク (仮名)

発表者名: 趙 衛国

論文掲載誌: 『人文科学』第 25 号,大東文化大学人文科学研究所

掲載時期: 2021 年 3 月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)